

# リフトインストラクター試験 問題例 解答

## リフトと吊り具の種類と特徴(基礎編)

1.

- 1 ( ○ ) その通り
- 2 ( × ) 操作ミスをかばうできないので、安全に注意し、操作する必要がある。
- 3 ( ○ ) 本人の身体条件などに適応していれば問題ない。
- 4 ( ○ ) キャスター径が大きい程、リフトの移動の操作性は良くなる。

## リフトと吊り具の種類と特徴(応用編)

2.

- 1 ( ○ ) 股関節の伸展筋力が不足の場合は、寝かせ気味に吊る必要があり、その場合、脚部のストラップを短くして吊ると寝た姿勢になる。
- 2 ( × ) 臀部が落下し、股関節が過屈曲した状態となっており、本人に苦痛を与える。
- 3 ( × ) 同じ方向の場合、着座させようとするリフト本体がレール上を動いてしまっただけで着座させるのに苦労し、適切な着座姿勢で着座させにくい。

## 課題に対しての対応方法など(記述式)

3.

a ( シート型吊り具のローバックタイプ )

通常の移乗方法については解答を省略。 注意点のポイントのみ記載

b ①ベッドの高さを腰に負担のない高さまで上げる。

②車いすのリクライニング角度を予め調整しておく。

③股関節を伸展気味に吊り上げるため、脚部側のストラップを短く調整する。

④臀部が浮き上がる前に、大腿部の側方からの圧迫を軽減させる。

⑤吊り具のストラップにテンションが掛かった時、リフトの上昇を一旦止め、吊り具のストラップが確実にリフトのハンガーに掛かっているかを確認する。

## 実技課題

### 実技試験でのポイント

- (1) 時間に制限はありませんので、あわてず、注意深く行ってください。
- (2) 移乗時のポイント、注意しなければならないポイント、安全に関するポイントを理解して行ってください。
- (3) 実技を開始し、終了するまでが採点の対象となります。最後まで気を抜かないで。
- (4) 声掛けを確実に行ってください。